

学校と家庭・地域を結ぶ家庭教育学級

～交流・体験を取り入れた地域ぐるみの子育て学習を通して～

板倉町立板倉中学校 大工原さゆり

I はじめに

近年の都市化、核家族化などの社会状況の変化の中で、家庭の教育力が低下していると指摘されている。核家族化により、同居の祖父母から子育てのアドバイスをもらったり、地域で子育てを支えたりすることも少なくなっている。そんな中で、子どもの教育を母親が一人で抱え、母親自身が不安を抱えながら子育てをしていることが多い。このような状況から、新学習指導要領でも、家庭教育の重要性が取り上げられている。

本校においても学校に寄せられる保護者の相談から、保護者が子育てに悩み、不安を感じながら子どもと接していたり、過干渉な保護者や毅然とした態度で子どもに接することのできない保護者がいたりすることを感じる。また、子どもの問題行動に対して「我が子だけなんだろうか」とか「私の子育てが間違っていたのだろうか」など保護者自身が子育てに自信を失い、「子どもにどう接してよいか」迷いながら子どもに接する様子が見られる。このような保護者の不安定さが、子どもの問題行動をより増加させてしまう悪循環が起きていると感じる。このような状況から保護者の子育てを学校が支える必要があり、家庭教育の充実が、子どもたちのよりよい成長に重要であると考えます。

板倉町の小学校4校と中学校1校は、板倉町教育委員会生涯学習係から「保護者を対象に親の姿勢や家庭の在り方を学ぶ家庭教育学級」の開設を委託されている。各小中学校で教頭、一年生の学年主任が中心になって年5回程度の家庭教育学級の内容が計画、実施されている。この家庭教育学級の内容は、主に学校長・養護教諭・栄養士からの「家庭教育とは」「子どもの健康について」「食生活について」の講話や保護者と子どもとの交流行事、保護者同士の交流を深める施設見学などがある。

表1 家庭教育学級プログラムの基本構想

この板倉町の家庭教育学級を保護者の抱える問題を取り上げ、実際に保護者が自信を持って子育てにかかわれるプログラムに見直していくことが、家庭教育の充実につながると考えた。そこで、平成16年群馬県総合教育センターの長期研修員として生徒指導教育相談グループで学んだ右図に示すような「体験型の子育て学習で進める保護者会」の展開モデルを参考に、保護者の抱える問題を解決するプログラムを組んでいけるように考えた。

本内容は、平成20年度から今年度までの「体験型の子育て学習で進める保護者会」展開モデルを参考に交流や体験を取り入れた板倉中学校の家庭教育学級実践からの学びと板倉町全体で学校と家庭・地域が連携して家庭教育の充実に向けた取組の実践報告である。



Ⅱ 家庭教育の充実を図るための工夫

1 体験を取り入れた家庭教育学級

これまでの家庭教育学級では、講師から様々な情報を伝達されることが中心で、保護者はどちらかというと受け身で話を聞き、知識を得ることが多かった。このような受け身で話を聞くだけでは、子育てに参考になる様々な知識を得られるが、実際家に帰ってその知識を目の前の我が子と接するときはどう生かしていけばいいのかというところにつながらず、我が子へのかかわりの具体的な変容はない。子育ての知識だけでなく、かかわり方をロールプレイするなど実際に子どもとのかかわりを体験することから、保護者の気づきが生まれ、子どもへのかかわりが変わっていくであろうと考えた。そのため、家庭教育学級の中で実際に子どもとかわる場面を設定し、保護者同士でロールプレイを行うようにした。また、毎年食育として栄養士に、栄養バランスを考えた食事が大切であることや朝食の大切さなどの話と朝食・お弁当・夕食などの調理実習を行う体験も取り入れている。

2 交流を取り入れた家庭教育学級

授業参観で保護者の様子を見ると、子どもの様子を見るより、友達の保護者と話している姿が多いことがある。普段、保護者は、小学校が同じで仲のよい保護者同士、同じ部活動の保護者会で知り合った保護者同士など限られた保護者との情報交換が多い。また、他の保護者とかわりの少ない保護者もいる。このような保護者の実態から、一部の限られた保護者同士の交流では、家庭教育力は向上していかないと考える。そのため、家庭教育学級において、様々な保護者と知り合いになる場面を設定することが、必要であると考えた。多くの保護者と知り合いになり、様々な意見を聞くことは、保護者の考えを広げ、どこの家庭にも同じような悩みがあることに気づき、保護者の気持ちの安定や自信を持って子育てすることにつながると考えた。このような考えから、家庭教育学級の活動の始めに、緊張をほぐし、保護者同士が打ちとけあうための活動（アイスブレイキング）を取り入れるようにした。また、活動の内容によって、同学年同士・異学年同士・地区の異なる保護者同士、アイスブレイキングでのグループ（例えばバースデーラインなどで4人組を作る）などグルーピングを意図的に行い、いろいろな保護者と意見を交流できる場面を設定した。

3 保護者の実態や学校のニーズに合わせた家庭教育学級

年度初めに、教員や相談員、スクールカウンセラー（以下、SCと略す）から生徒や保護者の実態や抱える問題などの聞き取りを行っている。そして、家庭教育学級の募集要項に保護者の悩みや学びたいことなどを書く欄を設けている。この保護者の実態や学校のニーズを基に毎年「体験型の子育て学習で進める保護者会」の展開モデルを参考に、講師の先生と打合せをして、活動内容の組み立てを行っている。基本的な流れは、「体験型の子育て学習で進める保護者会」の展開モデルの「課題に気づく(1)」「方針を立てる(2)」「子どもとかわる実習(3)」「家族の役割(4)」「生き方を探る(5)」の5つのアプローチを取り入れている。毎年入級し受講する保護者もいるので、取り上げるアプローチは同じでも活動内容が同じものにならないように工夫している。

そして、必ず第1回目の講師は、本校のSCにお願いしている。年度初めの第1回目でもSCに講師を務めてもらうことで、保護者にSCを知ってもらい、保護者が悩みや不安を持ったときに相談しやすい環境をつくっている。食育は、本校の栄養士にお願いしている。その他の活動は、群馬県総合教育センターの生徒指導相談係の指導主事や以前本校に勤務していたSCと私と一緒にやっている。

また、最後の家庭教育学級は、PTA教育講演会と兼ねて、多くの保護者に体験しても

らうようにしている。以下は本校の3年間の家庭教育学級の活動内容である。

[平成20年度]

日時	活動内容 (講師)	グループ	展開モデルのアプローチ
6 / 6	家庭における親の役割(ロールプレイ) 〈本校のスクールカウンセラー〉	同学年	課題に気づく(1)
7 / 11	夏を乗り越える夏料理 (食育) 〈本校の栄養教諭〉	地区別	
9 / 10	子どもとかかわる10の秘訣 〈総合教育センター指導主事〉	異学年	方針を立てる(2)
11 / 27	親の思い、子どもの思い(ロールプレイ) 〈本校のスクールカウンセラー〉	同学年	子どもとかかわる実習(3)
1 / 21	思春期のわが子と生きる 〈総合教育センター指導主事〉	アイスブレイク	生き方を探る(5)

[平成21年度]

日時	活動内容	グループ	展開モデルのアプローチ
6 / 10	思春期の子ども理解 〈本校のスクールカウンセラー〉	異学年	課題に気づく(1)
7 / 9	夏のお弁当 (食育) 〈本校の栄養教諭〉	地区別	
9 / 11	子育ては私だけがするの? 〈総合教育センター指導主事〉	同学年	家族の役割(4)
10 / 22	いい方法はないかな(ロールプレイ) 〈本校の元スクールカウンセラー〉	アイスブレイク	方針を立てる(2)
11 / 19	わかっているけどうまくかかわれない(ロールプレイ) 〈本校の元スクールカウンセラー〉	アイスブレイク	子どもとかかわる実習(3)
1 / 21	思春期のわが子とつきあう秘訣 〈筑波大学准教授〉	アイスブレイク	生き方を探る(5)

[平成22年度]

日時	活動内容	グループ	展開モデルのアプローチ
6 / 3	子どもの生の声を聞こう 〈本校のスクールカウンセラー〉	同学年	課題に気づく(1)
7 / 15	簡単、おいしい、朝ご飯 (食育) 〈本校の栄養士〉	異学年	
9 / 2	子どもとかかわる秘訣 〈総合教育センター指導主事〉	アイスブレイク	方針を立てる(2) * 地域の人も参加
11 / 18	もっと、子どもとうまくかかわりたい (ロールプレイ) 〈本校の元スクールカウンセラー〉	アイスブレイク	子どもとかかわる実習(3) * 地域の人も参加
1 / 18	子育てを振り返り、これからの生き方を考える 〈総合教育センター指導主事〉	アイスブレイク	生き方を探る(5) * 地域の人も参加

4 多くの保護者に参加してもらうための工夫

中学校3年間は、子どもが心身ともに大きく成長する時である。特に、子どもたちは、思春期になり、それぞれ悩みや不安を持つ時期でもあるので、その子どもたちを支える保護者もそれぞれの学年で悩みや不安を持っている。このような実態から、今までの1年生の保護者を対象とした家庭教育学級でなく、家庭教育学級の対象を全校生徒の保護者へと変更した。そして、年度初めのPTA総会や学校説明会で家庭教育学級の入級の呼びかけを行ったり、新入生説明会でも板倉中学校の家庭教育学級のPRを行ったりしたことにより、入級する保護者が年々増加している。図2は、今年度の募集要項である。また、入級していなくても回ごとに相談室だよりを通じて参加を呼びかけている。

表2 今年度の家庭教育学級の募集要項

平成27年度4月28日
板倉中学校PTA会
家庭教育学級入級者募集について

新学年の始まりがやがて迎えられる季節となりました。保護者の皆様にはさまざまなご事情のこととお察し申し上げます。また、日頃から学校の教育へのご理解とご協力に頼りまして感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、板倉中学校の生徒は、今年度も家庭教育学級を開設することになりました。今年度も1年生の保護者だけでなく、全校生徒の保護者を対象に子どもたちの学習生活のサポートや、子どもの悩みや不安の解消、生活習慣の改善などについてお話ししたいと思います。なお、入級を希望される方は、申込書にご記入の上、お申し込みください。

1. 学級の目的
生徒の学習生活をサポートし、保護者相互の理解と信頼を深め、子どもに対する親の愛情や家庭のあり方を学びます。

2. 学級の期間
平成27年 5月～平成28年 1月

3. 入級対象者
板倉中学校3年生の生徒の保護者を対象とします。

4. 事業の内容
まはるの内に参加できなくても結構です。入級していただく上級生以上の参加者の方の案内もさせていただきます。

日	実施内容	形式	時間	講師	会場
6/3 (水)	開校式と講演 「思春期の子どもと親」	講演	1:00 より	板倉中 PTA会 小宮 達一	板倉中 スクールホール 2階
7/13 (水)	思春期の子どもと親について	講演と 体験学習	1:00 より	板倉中 PTA会 小宮 達一	板倉中 PTA会 小宮 達一
8/7 (水)	思春期の子どもとかがわら	講演と 体験パート1	1:00 より	板倉中 PTA会 小宮 達一	板倉中 PTA会 小宮 達一
11/11 (水)	思春期の子どもとかがわら	講演と 体験パート2	1:00 より	板倉中 PTA会 小宮 達一	板倉中 PTA会 小宮 達一
1/13 (水)	思春期の子どもとかがわら	講演と 体験パート3	1:00 より	板倉中 PTA会 小宮 達一	板倉中 PTA会 小宮 達一

今年度の内容紹介

第1回 思春期の子どもと親

本校の27-28期生の保護者先生は、カリコウにも所属しており、子どもの心の専門家です。保護者先生から思春期の子どもについて今年度はお話しさせていただきます。

第2回 思春期の生活

今年度から本校に転任してきた栗原先生が、思春期の生活のお話と実践についてお話しします。是非お話ししてあげてください。

(今年度の準備のあるお母さんの実習で完成したお弁当)

第3回 思春期の子どもと親

県内のいろいろな学校や保護者、子どもの相談を受けている総合教育センターの先生が、子どもとかがわらや家庭の役割について、講演と実習を行います。

第4回 思春期の子どもと親

今年度最初の27-28期生の保護者先生が、思春期の子どもと親についてお話しします。是非お話ししてあげてください。

第5回 思春期の子どもと親

県内のいろいろな学校や保護者、子どもの相談を受けている総合教育センターの先生が、「子どもとかがわら」を実践していただくお話しを行います。

第6回 思春期の子どもと親

県内のいろいろな学校や保護者、子どもの相談を受けている総合教育センターの先生が、「子どもとかがわら」を実践していただくお話しを行います。

(今年度の家庭教育学級の様子)

* 家庭教育学級に入級していただき、講師上級生に質問や実習についてお話しをさせていただきます。是非お話しして、参加の機会をください。

◎上記のようお申し込みですが、取り上げてほしい内容や希望があれば下記に書いてください。

Ⅲ 交流・体験を取り入れた家庭教育学級の実際

1 交流の場を設定して

(1) アイスブレイクで交流

必ず、活動の最初に参加した保護者の緊張をほぐすアイスブレイクを取り入れるようにしている。例えば、バースデーラインやひたすらじゃんけん、拍手の数でグループづくりなどを行っている。このアイスブレイクを通して、互いに自己紹介をしたり、活動のグループづくりをしたりしている。



図1 アイスブレイクの様子

(2) 活動のグループ作りを工夫しての交流

活動内容によっては、同学年同士、異学年同士、地区を配慮したり、兄弟姉妹の人数を配慮したりして、保護者同士の輪が広がるように工夫をしている。

(3) 活動の中で意見の交流

活動の中で、講師のロールプレイをみて感想を話し合ったり、「自分だったらどうするか」子どもにかける言葉をグループで話し合ったり、ブレインストーミングを取り入れたりする場面を設定し、子どもとのかかわりを振り返り、保護者の考えを広げ、子どもとのかかわりの引き出しを多くするようにしている。



図2 意見の交流の様子



図3 ブレインストーミングの様子

保護者の感想は、次のようなものである。

- ・新しい保護者と知り合いになって、新たな発見ができました。
- ・参加された保護者の方、皆さんと楽しく、和やかに話ができよかったです。
- ・家庭教育学級に参加すると、悩み事があっても他の保護者の方と話ができ、共感してもらえ、ほっとした気持ちになります。
- ・いろいろ大変なのは自分だけではないのだと思いました。同じ学年の保護者の方と知り合うことができよかったです。
- ・似た家族構成の方とも話ができ楽しかったです。よその家族の話が参考になりました。
- ・他の人の考え等も聞けたので、子育てのバリエーションが増えました。講師の先生の話も身近なことで感動しました。
- ・他の方の意見も聞けて、少し安心しました。たくさんの意見を参考にし、これからの子育てに活かしたいと思います。
- ・どの保護者も悩んでいることにあまり違いはなく、同じ時期、同じことで悩むんだと分かりました。
- ・同じ立場の保護者から話を聞くことは大変有意義だと思います。
- ・日頃思っていることが、皆さんと共有できた感がありよかったです。

このような保護者の感想から、アイスブレイクや意図的なグルーピングで保護者の新たな絆が生まれ、保護者の輪が広がっていることが分かった。そして、意見を交流することで「みんな同じことで悩んでいるんだ。私だけではないんだ。」という気づき生まれ、保護者の気持ちの安定につながるということが分かった。また、他の保護者の意見を聞くことで、保護者の子育てのバリエーションが増えることや保護者が自己解決できることが分かった。

2 体験活動を取り入れて

(1) 調理実習を取り入れて

講師の先生から食育の話を聞くだけでなく、レシピを用意してもらい、各グループに分かれ調理実習をすることを毎年取り入れている。調理実習をしながら、初めて会った保護者と和やかに話しながら実習する姿が見られる。作ったものをお互いのグループで交換しながら、また試食しながら、自然と子どもの話や家庭の話をする姿も見られる。女性のストレス解消は「おいしいものを食べて、話をすること」とよく言われるが、調理実習はまさに母親のストレス解消になっているように感じる。

(2) ロールプレイを取り入れて

例えば、子どもに「みんなが持っているから携帯電話を買ってよ。」と言われたら、「友達に嫌なことを言われ学校に行きたくない。」と言われたら何と答えるかなど実際に起こりそうな場面を設定して、グループの人とロールプレイをします。このロールプレイを通して、保護者は子どもの気持ちに気づきます。



図4 調理実習の様子



図5 ロールプレイの様子

保護者の感想は、次のようなものである。

- ・短時間で安価な材料でとてもボリュームのある見た目にもよいものが作れました。他の学年のお母さんとの会話も楽しく、参加してよかったです。
- ・今日作ったオムレツパンを早速朝食で作りたと思います。
- ・今日作った料理は今まで作ったことのないものばかりでした。是非、家庭で作ってみようと思いました。
- ・今まで話す機会がなかった人とも調理実習を通して、交流が持てたこともよかったです。
- ・3年生や2年生のお母さんと話ができてよかったです。
- ・ロールプレイをしてみて、普段自分の要求だけを子どもに押しつけていることに気づきました。
- ・「私は愛情たっぷりに育てているし、間違っている所は何もない！」と思っていたが、ロールプレイをしてみて間違いだらけだったかもしれないと思いました。今日のことをきっかけに、前向きに考え、親も子どももまだまだ変わっていけるんだという発見ができました。
- ・ロールプレイをして、子どもは憎まれ口をたたきながらも親の愛情を求めているのかなと改めて思いました。
- ・わかっているもよけいな一言を言っている自分を反省しました。
- ・自分を振り返るよい機会になりました。
- ・子どもの目を見て、反応を見ながらコミュニケーションをとりたいと思います。

このような保護者の感想から、体験活動を取り入れたことにより、家庭に帰って実践しようという意欲が高まったことが分かった。特にロールプレイで、子どもの心に気づくことによって、保護者に子どものかかわりを変えなくてはという思いが生まれ、家庭でのかかわり方の変化につながっている。

IV 地域へ広がる新たな家庭教育学級

1 学校と家庭・地域を結ぶ家庭教育学級

板倉中学校の家庭教育学級の取組で、保護者の子どものかかわりが変わり、子どもの変化につながる成果がみられた。そして、この家庭教育学級の学びから、保護者が子どものちょっとした変化にも気づき、教師や相談員、SCに相談することも増えた。

このような成果から、板倉町教育委員会では、町内の4つの小学校にも交流・体験を取り入れた家庭教育学級を取り入れることを薦めた。小学校の交流・体験を取り入れた家庭教育学級は、群馬県総合教育センターの生徒指導相談係の指導主事に講師をお願いしたり、板倉町教育研究所の相談員が担当したりしている。

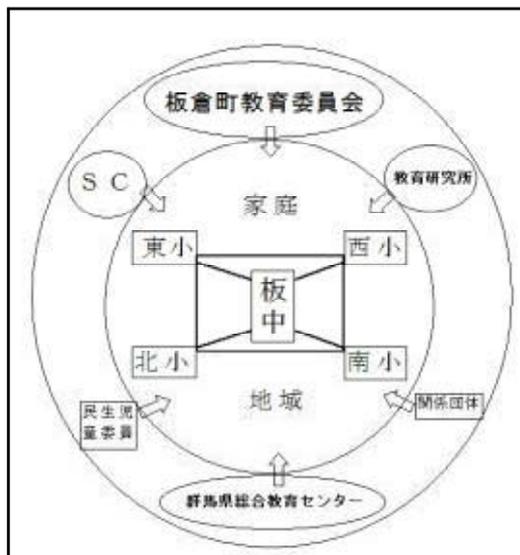


図6 板倉町家庭教育ネットワーク構想図

また、学校や家庭を支える地域の関係団体の方々にも子どものかかわりを学んでもらい、家庭教育を地域ぐるみで支え、子どもの健全育成を図ろうという考えが強まった。そして、今年度教育委員会から、板倉中学校の家庭教育学級に民生児童員や人権擁護団体など学校や子どもにかかわる関係機関の方々へ参加を呼びかけている。このような板倉町の学校と家庭・地域を結ぶ家庭教育学級の取組を図6「板倉町家庭教育ネットワーク構想図」として表した。

2 交流・体験を取り入れた小学校の家庭教育学級

板倉町では、板倉町教育研究所の相談員3名が分担して、中学校に月曜から金曜日まで勤務する他、毎週1回各小学校を訪問し、各クラスの授業に入って支援を行ったり、休時間児童の相談や教師の相談を受けたり、保護者の相談を受けたりしている。

この各小学校訪問をしている相談員と話し合 表3「こんなときどうする？」の資料い、保護者、教師のニーズ及び児童の実態から家庭教育学級の活動内容を決めている。また、群馬県総合教育センターの生徒指導相談係の指導主事とも相談をし、5つのアプローチを基に2回の活動案を考えている。今年度は、群馬県総合教育センターの指導主事が「親子のコミュニケーションを見直す(課題に気づく)」のプログラムを行い、板倉町の教育研究所では、「子どものかかわり方を考える(方針を立てる)」のプログラムを行った。そして、プログラムの活動の中には、中学



校の家庭教育学級と同様に、アイスブレイクや意見の交流場面を設定したり、ロールプレイなどの体験を取り入れている。

表4 「子どもとのかかわりを考える」の活動案



図7 「いい方法ないかな？」の活動の様子

- ・ロールプレイすることで、子どもの気持ちがわかり、家庭での声かけを変えていこうと思った。
- ・子どもをしかる時は、一呼吸おいてからにしようと思った。
- ・子どもと同じ目線になって話をするとよいと思った。
- ・他の保護者の考えを知ることができてよかった。
- ・楽しい家庭教育学級でした。

「いい方法はないかな？」活動案		
ねらい：自らのかがわりが見つくとともに、他の参加者から新たな視点を得る学びがたいから、今後のかがわりとのかかわりの方針が立てられるようにする。		
活動内容	時間	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・今日のねらいを話す。 ・「日々お子さんとのかがわり方でもいい方法はないかな？とお考えになっていると思うので、今日は、みなさんで考えていきましょう。」 ・じゃんけんポンリングを行う。（アイスブレイク） ・クイズを出し、その答えの数だけ、送りの人と手をつないで下さい。 ・4人グループで自己紹介をする。 	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張をほぐすために2グループに分かれ、じゃんけんポンリングを行うことを説明する。 ・最後4人グループになるようにする。 ・子どもと目のかがわりの様子を入れながら話すように伝える。1人1分程度にする。
<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が「日頃子どもとのかかわりで大切にしていること」を付箋に書く。 ・書き出した内容を横並びに貼っていく。 ・まとまりごとにマジックペンで囲い、内容にぴったりのネーミングをマジックで書く。 ・グループごとに発表をする。 	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙1枚に1つの内容を書くように話す。 ・内容を読み上げて貼っていくことや同じ内容が出た場合には一緒に送りに貼ることを伝える。 ・まとまりができたら、それぞれつながりや優先順位を話し合うように伝える。 ・グループ全員で役割分担をするように伝える。
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動振り返る。 ・まとめ 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのかかわりで「いい方法」と思ったことを書ように伝える。 ・他の保護者と学び合いができたことを伝える。

3 地域の人も参加する家庭教育学級

板倉町は、祖父母と同居している家庭が多い。また、児童生徒の登下校時には、地域の人々が防犯パトロールなどを行っている。このように保護者だけでなく、地域の人々も子どもたちにかかわってくれる場面は多い。学校や家庭を支えてくれている地域の人々にも子どもとのかかわりを共に学んでもらうことにより、家庭教育の充実が図られると考えた。そして、板倉町教育委員会の教育長から、板倉中学校の家庭教育学級に地域の人々が参加できる機会を設けてはどうかという提案があり、今年度から地域の人々にも参加を呼びかけた。右上の写真は、今年度群馬県総合教育センターの指導主事が講師を務めてくれた「子どもとかわる秘訣」の活動の様子である。



図6 地域の人との意見交流の様子

参加した地域の方は、保護者と意見の交流をしたり、講師の話を聞いたりすることで、子どもとのかかわりを振り返ったり、自分のできることを考えたりしている。このようなことから、近所の児童生徒を見る目も今までと変わったり、声かけも変わったりするのではないだろうかと感じた。まだ、この試みを始めたばかりだが、この交流・体験を取り入れた家庭教育学級を板倉町の各小学校・地域に広げることが、子どもを支える力が強くなることにつながると考える。

今回の家庭教育学級には、人権擁護団体の方、婦人会の方、教育委員の方が参加し、次のような感想を述べてくれた。

- ・現役のお若い方といろいろお話ができて楽しく、充実した時間が過ごせました。
- ・「遠くからでも見守ってあげる」「良いこと悪いことは、はっきり教える」「どんなことがあっても子どもの心を信じてあげる」ことが大切だと感じました。
- ・子どもの気持ちになって、一緒に感じ、喜び、悲しみを体験できたかなと今昔を振り返ることができました。
- ・家庭教育とは、親の教育であり、我が子にどのようにかかわったらよいのか親自身が気づいていくことが大切だと感じました。

このように参加した地域の方も自分の子育てや家庭での孫とのかかわりを振り返る機会になったり、改めて子どもとのかかわり方を考えたりすることができたことが分かる。このような学びから、家庭や地域での子どもたちにかける一声が変わっていくであろう。また、保護者を支える声かけも増えていくのではないだろうか。

V 実践からの学び

これまで家庭教育学級に参加した保護者の感想には、次のようなものがあった。「初めてお会いした保護者の方々とコミュニケーションが取れ、たくさんの考えがあることが分かり勉強になりました。いろいろな学年の保護者の方の意見が聞けて、励まされる思いでした。」などこの家庭教育学級を通して保護者が、多くの学びや安心感を得たことが分かる。そして、毎年参加している保護者からは、「家庭教育学級に毎回参加し、子どもとのかかわりをその都度見直すことができ、自分の気持ちにゆとりが持てます。分からない時は相談させてください。」などの声がある。このように家庭教育学級に交流・体験を取り入れたことで、保護者が子どもと向き合い、子どもの変化に早く気づき、一人で悩まず、気軽に相談するようになったことが分かる。また、不登校傾向であった生徒の保護者が、家庭教育学級に参加し、子どもとのかかわりを学んだり、安心感を得たりすることで、保護者の気持ちが安定し、子どもの気持ちが安定し、不登校傾向がなくなってきたという事例もある。

小学校においては、1年生の保護者が全員参加するので、保護者間の友達作りや信頼関係を強める場になっている。そして、そこでの学びから子どもへのかかわりが変化し、子どもの安定につながっている。また、子どものことで悩みや不安を持ったときには、すぐに学校や教育研究所に相談する保護者も増えてきている。このことは、家庭教育を学校が中心になって進めていることで、保護者の学校への信頼が深まっているからと考える。

地域の方々が学校に来て家庭教育学級で保護者と共に学ぶことにより、子どもや保護者への声かけが変わるだけでなく、学校との信頼関係も生まれている。

3年間の板倉中学校での実践や板倉中学校を中心とした板倉町全体の家庭教育充実に向けた取組から、家庭教育の充実に大切な4つのポイントを以下のようにまとめた。

家庭教育の充実のためのポイント

- 1 学校がコミュニティの核になることが大切！
- 2 「脱、孤育て！」親の友達作りの場になることが大切！
- 3 「楽しかった、来てよかった」と思えるプログラムが大切！
- 4 学校と家庭・地域の信頼関係を強める場になることが大切！

VI おわりに

本校では、この家庭教育学級を取り入れてから、保護者が子どもの変化に敏感になり、ちょっとした変化でも学校や相談室に相談するようになった。そのため、不登校数も減少してきている。このように家庭教育の充実を学校が主体となって進めたことで、学校と家庭との結びつきが強くなり、子どものよりよい成長につながっていると考える。

また、家庭教育学級に交流を取り入れたことで、保護者の「孤育て」をなくし、保護者同士のつながりを強め、子育ての不安を減少させることができた。保護者が「私だけではない。みんな同じ悩みを持っているんだ。」という思いから、子どもに対して安定した気持ちで接することができ、子どもの気持ちの安定にもつながっていると考える。

また、体験活動から、子育てを振り返り、子どもの気持ちを理解し、子どもへのかかわり方の引き出しを増やすことができている。体験活動を取り入れたことで、保護者の実践力の向上が図れたと考える。

そして、板倉中学校の取組を地域へ広げたことにより、学校と地域との信頼関係も強まっていくと考える。家庭教育学級を地域の方々と共に家庭教育を学ぶ場としたことで、学校が地域の中心となり家庭教育を充実する場になってきている。地域の各小学校への広がりや地域の人々の参加によって、家庭教育というものを通じて、今後学校と家庭・地域との結びつきも強まると考える。この取組を板倉町全体で継続することで、地域で家庭教育を支え、子どもの健やかな成長を図ることができるであろう。

しかし、3年間の取組で次のような課題もでてきている。

課題の1つ目は、多くの保護者に参加してもらおうと様々な工夫をしてきたが、来てほしい保護者には、参加してもらえていないという現状がある。この課題を解決するためには、希望制の家庭教育学級ではなく、学級懇談や学年懇談など全保護者の参加する場で交流・体験を取り入れていく保護者会を行う必要がある。

課題の2つ目は、講師を群馬県総合教育センターの指導主事やSCにお願いしていて、多くの教師が、かかわっていない。講師を教師が務めることで、教師自身にも生徒とのかかわりでの気づきが生まれ、生徒との良好な関係の築き方を学べる場になると考える。そして、参加する保護者との信頼関係も深まると考える。今後教師も参加できる時間や場の設定をしていく必要がある。

課題の3つ目は、小学校では、まだ1年生の保護者対象に行われているだけである。小学校6年間は子どもは大きく成長し、保護者も子どもとのかかわりで悩むことも多い。小学校においても全学年の保護者を対象とし、多くの保護者が学べる場を設定する必要がある。小学校でも家庭教育学級の対象を全学年に広げたり、学級や学年懇談で取り入れたりとしていくことで、それぞれの発達段階に応じた課題を解決していけると考える。

そして、幼稚園や保育園の保護者対象にも広げていくことができれば、家庭教育力の向上がより図れるであろう。今後もこのような課題を解決し、家庭教育の充実に努めていきたい。

最後に、板倉中学校や小学校で「交流・体験を取り入れた家庭教育学級」を実践する場を与えてくださった板倉町教育委員会や板倉中学校、各小学校の皆さんに深く感謝したい。そして、この板倉中学校を中心とした板倉町の家庭教育の充実に向けた取組が、少しでも他地域に役立てれば幸せである。

〈引用・参考文献〉

群馬県総合教育センター著、亀口憲治監修（図書文化）

「体験型の子育て学習プログラム15ー来てよかったと喜ばれる新しい保護者会」

（注1：P10より引用）